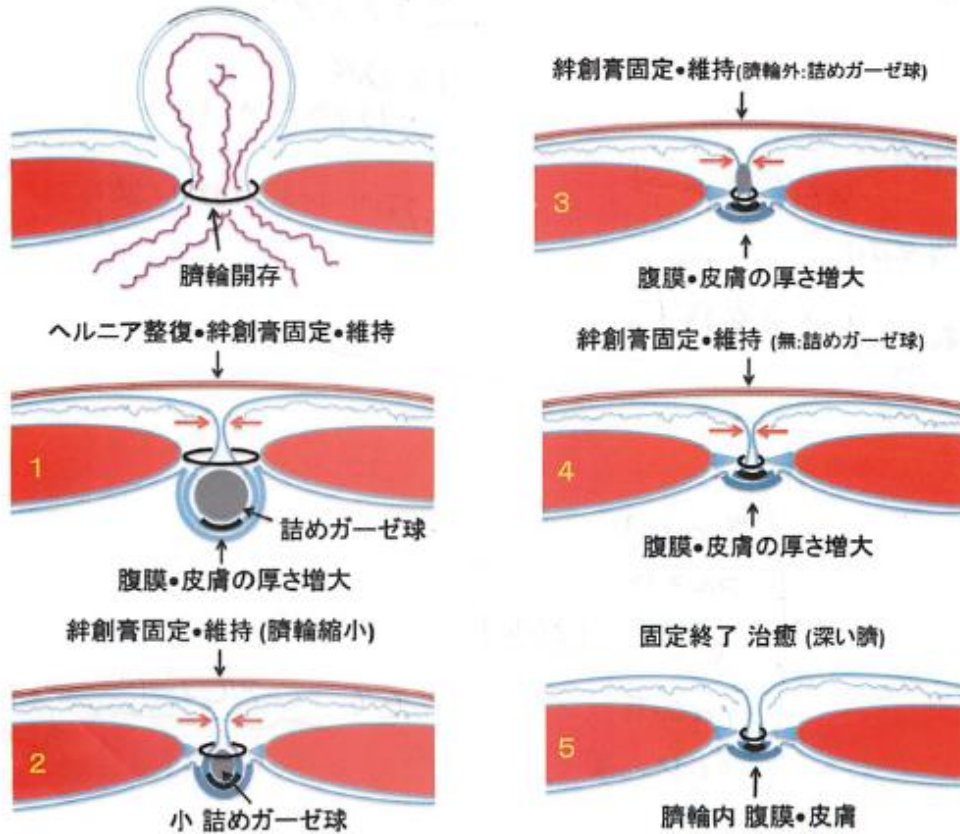


- ・ 臍ヘルニアとは？
 - 胎児は母親の胎盤とおへそを通じて血管でつながっています。血管はおへそを貫通しているので、産まれたばかりのときはおなかの膜に穴が開いています。通常は1ヶ月以内に自然に閉じますが、1ヶ月以内に閉じないと腹筋が強くなり開いている穴を通から腸が脱出するようになります。これを臍ヘルニアと言います。
- ・ 臍ヘルニアの治癒率は？
 - 臍ヘルニアは自然に治ることが多く、1歳までに約80%、2歳までに約90%が治ると言われています。
 - ただし治癒率は臍ヘルニアの大きさにもより、大きい臍ヘルニアほど自然治癒率は低くなります。また、治っても臍がたるんでいたり少し飛び出ている部分が残ったりすることもあります。
- ・ 臍ヘルニアが治らなかった場合の問題点は？
 - 臍ヘルニアが放置されることが少なくなった近年はでべそが子どもにとって珍しいこともあり、からかわれる原因となることがあります。現実的な問題として、その解消のために全身麻酔での手術を選択されるケースが多いのが現状です。
- ・ 臍ヘルニアの圧迫治療とは？
 - テープで腸がおなかから腸が脱出しないように固定をすることで、おなかの膜が閉じる助けとする治療です。
 - 治癒期間の短縮や治癒率の向上、また治ったときの外見のよさが報告されています。
 - おなかの膜の穴の自然閉鎖を助ける治療であり、自然閉鎖がおこりやすい時期は乳児期前半です。圧迫治療はできるだけ早い時期に始めることが効果的です。様子を見て臍ヘルニアが治らなかつたら圧迫治療を試みよう、と考えるのは治療効果も期待できないのでやめておきましょう。
- ・ 臍ヘルニアの圧迫治療のデメリットは？
 - 最低週1回、圧迫をするテープの貼り替えのため通院する必要があります。
 - 肌の性質により個人差がありますが、テープかぶれがおこったり、かぶれたところが化膿することがあります。
- ・ テープかぶれやかぶれたところの化膿の対処方法
 - テープかぶれや化膿はテープによる圧迫が原因であるため、圧迫テープをはがし必要に応じて塗り薬を塗れば速やかに改善します。しかし、圧迫治療は圧迫を継続することでもっとも治療効果が得られるため、多少のテープかぶれであれば圧迫治療を続行します。
 - かぶれがひどい場合や化膿した場合は圧迫治療を1～3日ほど休止し、皮膚炎の治療を優先しなければならぬ場合もあります。

- ・ 圧迫治療期間は？
 - 小さいもので1ヶ月、中等度以上で2～3ヶ月程度が目安です。

圧迫治療の経過図



- ・ 他に臍ヘルニアの圧迫治療での注意点は
 - 初期に嘔吐が増えることがあります。
 - 大きな臍ヘルニアの場合
 - ◇ 極めてまれに、臍ヘルニアの嵌頓が生じる事があります。圧迫治療をしなくても同様に極めてまれに嵌頓が生じる事があります。
 - 嵌頓とは: 穴の大きさに対して腸が脱出しすぎておなかの中に戻らなくなり、腸が圧迫されて血行不全を起こすことです。放置すると最悪命の危険があります。
 - ◇ テープ固定中にお子さんの様子がおかしい、どこかを痛がる。元気がない、嘔吐を繰り返す、といった時は、平日であれば速やかに当院を受診してください。休日や夜間の場合などはいったん圧迫テープを解除して臍の状態が変わらないことを確認できると安全です。

平成 29 年 5 月 8 日
 さかたこどもクリニック 院長